

令和6年度 静岡大学人文社会科学部  
社会人選抜（第1期）試験問題

法学科 [小論文] (SH)

令和5年11月25日(土)  
10時00分～11時30分

注意事項

1. 解答始めの合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 解答始めの合図の後、下段に記載の枚数のとおり問題用紙・解答用紙・下書用紙があるか確認してください。
3. 解答を始める前に、解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。解答用紙に氏名を記入してはいけません。
4. 試験終了後も監督者が許可するまで退室しないでください。
5. 問題用紙及び下書用紙は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰ってはいけません。

問題用紙（この表紙を除く）	・・・6枚
解答用紙	・・・2枚
下書用紙	・・・2枚

次の文章を読み、以下の問いに答えなさい（問1・問2）。

[問題文]

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

## 著作権の関係上、公表しません。

出典： 高取正男『日本的思考の原型——民俗学の視角』（ちくま学芸文庫、2021年）より。  
なお問題作成にあたって、一部を改変した。

- (注 1) イロリ端 農家などで、部屋の床を四角に切りぬいて、防寒用・煮炊き用に火をたく装置の側や周りのこと。
- (注 2) ヨコザ イロリの奥正面にある家長のすわる席。
- (注 3) 家長 家や家族を頭となって統率する者。
- (注 4) 家父長制 父系の家族制度において、家長が絶対的な家長権（権限）によって家族員を支配・統率する家族形態。
- (注 5) 個人主義 個人の意義と価値を重視し、個人の権利や自由を尊重する考え方。
- (注 6) 一寸の虫にも五分の魂 どんなに小さく弱い者でも、それ相当の思慮や意地を持っており、小さくてもばかにできないたとえ。
- (注 7) インテリ 知識、学問、教養ある人、知識人。
- (注 8) 村落 都市に対する農村・漁村などの集落の総称。
- (注 9) 職能 社会や組織の中でその職業が受け持つ一定の役割。
- (注 10) 若者宿 村落の未婚の若者が夜集まって、仕事をしたり話し合いをしたりして親睦をはかり、寝泊りをする宿所。
- (注 11) 娘宿 村の未婚女性が集まって、手仕事をしたり泊まったりする宿。
- (注 12) 地縁 住む土地から生ずる縁故関係。
- (注 13) 出自 生まれた家柄、血統、土地などのこと。

- (注 14) タテ社会 儀礼的序列関係が重んじられる社会。
- (注 15) 近代化 個人の生活、思想において自由を重んじ、設備の機能化、労働の有効化を図るようにすること。
- (注 16) 敗北主義 はじめから敗北を予測し、成功や勝利を自ら期待しない考え方や態度。
- (注 17) 大伴坂上郎女 奈良時代の女流歌人。生没年不詳。万葉集において、女流歌人中いちばん歌数が多い。
- (注 18) 小母 よその年配の女性を呼ぶ語。おば。
- (注 19) 形代 祭祀のとき、神体の代わりとして据えるもののこと。
- (注 20) 霊性 非常に優れた性質や、超人的な力をもつ不思議な性質。
- (注 21) 主婦権 古い家族制度で、家長の妻がもっていた家事の管理・運営に関する権限。
- (注 22) 如上 前に述べたところ。前述、上述のこと。
- (注 23) エゴ 認識、意欲、行動などの主体として、他と区別される自分のこと。自己。自我。

[設問]

問1 下線部「なににつけても日本には近代的な個人意識の育つ条件がとぼしいと思いきみ、そうした宿命感から西洋に開花した近代社会とその文化にあこがれるあまり、西洋にあるものすべてを価値の基準にして、日本の伝統的な家屋には個室がないなどというのは、明治以来の知識人たちの、きまじめではあるが、独断と錯覚にもとづく敗北主義といわねばならない」と筆者が考えるのはなぜか、本文の叙述に即して 200 字程度で説明しなさい。(配点 40%)

問2 あなたは日本人の個人意識のあり方はどのようなものであると考えるか。問題文の内容をふまえて、あなたの見方を具体例を挙げながら 400 字程度で述べなさい。(配点 60%)

## 採点・評価基準（具体的基準）

教科・科目名	小論文	問題番号	SH
実施学部・学科（課程）等	人文社会科学部（法学科） 夜間主コース		
出題のねらい	<p>設問1 当該文章を読み解くうえでポイントとなる点について、本文に則して正しく理解し、それを的確に整理・要約できるかを確認する設問である。</p> <p>設問2 本文の趣旨を正確に読み取り、これに対して受験者の意見を展開させる設問である。受験者の文章読解力，表現力，論理的思考能力を探ることを狙いとしている。</p>		
採点基準	<p>設問1 本文で述べられている内容を正しく理解し，的確に整理・要約できるかどうか，を基準とする。</p> <p>設問2 受験者が問題文の読解を通じて，筆者の考えを理解し，それをふまえて自らの意思を論理的かつ説得的に表現できているかどうか，を基準とする。</p> <p>*いずれの設問ともに，誤字・脱字は1字につき1点減点（5点減点まで）</p> <p>配点  設問1        40 %  設問2        60 %</p>		